

# インナー大会プレゼン部門 2016 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学・学部・所属ゼミナール名（フリガナ）		
フリガナ）タカサキケイザイダイガク	フリガナ）チキセイサクガク	フリガナ）ツボイゼミナール
高崎経済大学	地域政策学部	坪井ゼミナール

※チーム名は参加申込書に記入した名称を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）チームボイボイ	フリガナ）タカハシ カズト	6	無
TEAM BoiBoi	高橋 一都		

研究テーマ（発表タイトル）
HAPPY WORK～大学生が大学生らしくアルバイトするために～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要（目的・狙いなど）

近年、ブラックアルバイトがひとつの社会問題となっている。学生の無知や弱みにつけこみ違法行為が当たり前となっている大変許せない問題だ。実際に、私たちの仲間にもブラックアルバイトによって授業や部活に参加できなかつたり、日常生活に支障をきたしている学生が多く存在する。学生が学生らしくアルバイトを行うために私たちは新しい学生組織 HAPPYWORK を提案する。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

今、約六割の大学生がアルバイトを行っている。アルバイトの頻度としては、週平均 2.9 日、14.3 時間行われている。厚生労働省の学生アルバイト調査によると 1000 人中の学生のアルバイト体験 1961 件のうち 48.2% が労働条件でトラブルが発生している。この結果から、大学生の多くがブラックアルバイトを経験しており現代の社会現象のひとつであると言える。私たちの身近でどのくらい問題であるかアンケートを取り調査を行ったところおよそ 6 割がブラックアルバイトの経験があることが分かった。ブラックアルバイトに対しての相談、問題解決を行っている組織（例 ブラックバイトユニオンなど）を知っている人は 20% しかいないことが判明した。厚生労働省が行ったアルバイト先の問題の相談先の調査では、問題に困り相談した学生の中で専門の相談先に相談したのはわずかであった。このことから、ブラックアルバイトの問題を扱う組織の知名度の低さと、知っているが利用しない方がほとんどであるということがわかった。以上をふまえ学生のブラックアルバイトでの被害の減少のためには、最も身近な存在である学生が主体となり、活動する組織があれば学生の利用するのではないかと考えた。

## 3. 研究テーマの課題

大学生がブラックアルバイトという脅威に脅かされることなく、学生らしくアルバイトを行うことのできる社会の実現のため、私たちは HAPPYWORK というアルバイトを取り扱う学生組織を提案する。この組織は、大学生が運営することにより他の専門機関と比較してより身近で利用しやすいという特徴があり、この特徴を生かすための具体的な活動内容を以下に挙げる。①セミナー、アンケート調査の実施。セミナーでは、アルバイトの経験がなくブラックバイトの被害にあう恐れが多い新入生への注意喚起。アンケート

調査では、現在のバイト先や、以前行っていた企業に関する情報を集め、生きた情報として活動に生かしていく。②アルバイトに関する相談窓口。アルバイト先でのトラブルに対しての相談を随時行う。③公共相談窓口との情報交換。公共相談機関と共に活動を行うことで、学生団体ではわかりかねる専門的知識、処理を補う。④無料でアルバイト紹介、企業との連携。無料で企業の求人を探す。しかし、ブラック企業でないと判断した企業以外は紹介を行うことはせず、クリーンな企業への紹介を行う。

#### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

先にも述べた HAPPY WORK で課題解決を図る。既存の学生ユニオンでは、学生から受けた相談内容を踏まえ、アルバイト先へ労働環境改善の請求をするように弁護士等の専門組織に業務を委託していた。だが、私たちの提案する HAPPY WORK は従来の学生ユニオンの活動に加え、新たな活動することを考えている。具体例を出すと労働基準法に従って企業を審査し、問題がなければアルバイト先として紹介するというものだ。また、紹介した学生にアンケートをとり、学生と企業のその後の様子について把握し状況によっては企業に対し、必要な措置を講じていくことを考えている。このように従来の学生ユニオンにはない企業との直接的なコンタクトをとったり、学生の労働状況を把握したりすることでより学生に寄り添った団体になると期待できる。今までの専門機関を通じた間接的な抑止力に加えて、HAPPY WORK から企業へと直接的な抑止力の 2 方面から企業にアプローチできる点で既存団体より効果をあげられると考えている。

#### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

HAPPY WORK に関してアンケートを学生・アルバイト先の企業に行った。①.HAPPYWORK を利用するか否か。②.①の回答についての理由。という項目で学生と企業に質問をした。加えて企業には学生のアルバイトについての不満・要望について伺いました。その結果、学生からは約六割の方が利用したい。企業からは、八割が利用したいとの回答を頂いた。

#### 6. 結果や今後の取り組み

アンケート調査の結果、HAPPY WORK のような機関があれば利用するという人は 54.7%、利用しないという人は 45.3%と他団体よりも身近な存在を目指した割に利用しない人が意外と多いということが分かった。この結果を受けて、学内に HAPPY WORK を設立することで学生と接触する時間を増やし、学生に身近に感じてもらえるようになる必要があると考えた。また、学生アルバイトに対する不満や要望について企業にアンケートしたところ、「言葉遣いが悪い」、「同校出身者でシフトが重なる」、「面接時と採用後の出勤日数、時間のずれ」等が挙げられた。この結果を踏まえて、学生側にシフトの要望やサークルや部活等の考慮をするためのヒアリングを、アルバイト先にはどのような人材を求めているか、学生への不満、トラブル等の事例をアンケート調査しながら活動をしていき、双方にとって良い関係を築ける架け橋のような存在にならなくてはならない。

#### 7. 参考文献

- ・ 「第 2 回 大学生の学習・生活実態調査報告書」, <<http://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=3159>>(参照 2016-9-4)
- ・ 「学生×シゴト総研」<<http://journal.rikunabi.com/p/student/souken/8364.html>>(参照 2016-9-4)
- ・ 「ブラックバイトユニオン公式ホームページ」<<http://blackarbeit-union.com/>>(参照 2016-9-5)
- ・ 「大学生等に対するアルバイトに関する意識等調査結果について」 <<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000103577.html>>(参照 2016-9-5)

#### インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項

##### <企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となります。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、3 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、3 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、「参加メンバー」の変更があった場合、上記「インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項」に記入してください。なお、参加申込書提出時か

らのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HPなどに発表されていない）ものに限ります。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、著作権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。